

大竹すすむ の青森市長選挙政策 2023

○Yes Peace！ 平和といのちと暮らしを守ります

- ・平和都市宣言+非核・平和の町宣言をバージョンアップします（*1）。
- ・コロナで、経済的、精神的、身体的に傷ついたすべての人を全力で支援します。
 - 「なんでも相談」窓口を作り、相談者に必要な情報を提供します。
 - ワンストップでセーフティネットを最大限活用します。
- ・国保税は、高校生までの均等割りをなくし応能負担に変えます。
 - 高校生までの医療費無料化を実現します。
 - 1才までのおむつ代をゼロにします。
 - 3つのゼロを実現させます
- ・病院統合は、オール青森で知恵を絞ります。
 - 主役は「市民」・「医療者」・「行政＝青森市職員・市議会」です。
 - 3者が参加する「医療を守る条例」を制定します。
 - 少ない医師、医療スタッフ、介護スタッフで地域包括ケアをめざします。
- ・雪対策は、市民と業者の声を活かし生活道路、歩道を除排雪します。
- ・通院や買い物に使える相乗りシステム（ride sharing）に挑戦します。
- ・パートナーシップ制度からファミリーシップ制度へ！同性婚実現のために国に働きかけます。

○Children first 子ども第一の青森市にします（人口増に反転）

- ・明石市の子育て支援策を参考にして、青森市でも実現させます。
 - 1年間、市職員を明石市に派遣し情報収集してロードマップを作ります。
- ・農・漁業者と連携し、地産地消の学校給食を実現します。
 - 毎日、旬の野菜や果物を喜んで食べてもらえるように、メニューを工夫します。
 - 1年中、地元の食材が使えるよう缶詰、冷凍保存などを工夫します。
 - 地産地消率 80%（エネルギーベース）を目指します。
- ・青森市子どもの権利条例を活かし、子どもと教師の人権を尊重します。
 - パワハラのない教育現場に変えます。
 - 子どもの権利相談センターの活動を拡大します。
 - 子どもの心と体の健康づくりのためのスタッフを増やします。
- ・疲弊している教師をサポートするスタッフを増やします。
 - スクール・サポート・スタッフ(SSS)の増員を県に要望します。
 - 休職中の代替が可能な体制を作ります。
- ・自転車通学に使うヘルメットは指定のものを支給します。
- ・こどもが決めて、こどもが1年中「遊べる場所」を作ります。
- ・子育て中の保護者が安心して働ける青森市にします。

○一次産業で食べられる青森市を復活させます

- ・農業人口の増加を目指します。
協同組合による農地ソーラーシェアリングについて検討します。
農業後継者を増やします。
国内から「トラベラーズワーキング」「ワーキングホリデー」(*2)、
海外からは「AOMORI. Farm Stay」制度導入を検討します（黒石市）
農繁期の市職員の兼業を認めます。
- ・農業収入保険の保険料援助について検討します。
- ・一次産業従事者のインボイスについて、相談窓口を充実させます。

○個別政策について

- ・風力発電の国立公園と世界遺産地域への建設計画は中止します。
- ・芸術文化活動を推進・奨励し棟方志功記念館は継続します。
- ・青森駅新駅ビルに設置予定の縄文施設は三内丸山遺跡に設置します。(*3)

*1 1990年7月28日に旧青森市が行った「平和都市宣言」、1986年に浪岡町が行った「非核・平和のまち宣言」を「新しい戦前」の今、バージョンアップします。

<https://www.city.aomori.aomori.jp/somu/shiseijouhou/aomorishi-konnamati/kensyou-sengen/01.html>

*2 ワーキングホリデー黒石

http://www.city.kuroishi.aomori.jp/sangyou/nougyou/working-holiday/files/Cit_Working_holiday.pdf

*3 青森駅周辺のまちづくりに関する青森県・青森市・青森商工会議所・東日本旅客鉄道株式会社の四者による連携協定締結について

http://www.jr-morioka.com/cgi-bin/pdf/press/pdf_1528276103_1.pdf

現青森駅東口駅舎跡地を活用した駅ビル開発を中心とした魅力あるまちづくりを推進します

<https://www.city.aomori.aomori.jp/toshi-seisaku/shiseijouhou/matidukuri/aomorieki-syuuhen/documents/yonsyakisyakaikensiryou0.pdf>

* 六ヶ所村も人口が減少しています。

明石市市長：「子どもたちに、自分たちのまちは自分たちで作っていて、未来は自分たちで変えられるというメッセージを伝えたい」